



眼科外来のご紹介

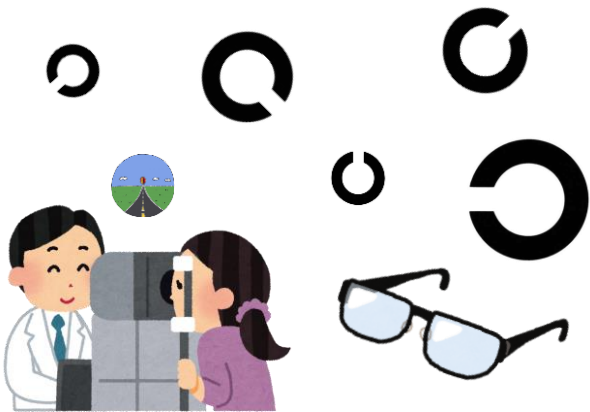
眼科外来は、病院の2階フロアにあり、とてもアットホームな雰囲気です。スタッフ一同、日々患者様と向き合っています。

当科のスタッフは、眼科医師2名（うち1名は浜松医大）、視能訓練士、看護師、受付事務各1名ずつの少数精鋭で、平日の午前中に一般外来、午後の特設検査・白内障などの手術を行っております。

当科を受診される患者様は、主に白内障、緑内障、ドライアイ、糖尿病網膜症の方が多くの特徴です。どの目の病気も、病状がある程度進行するまで自覚症状がないことが多く、そのため末期の症状が出て初めて病気が発見されることもありますので、特に目の症状がなくても、定期的に眼科を受診されることをお勧めいたします。

また、当院は平日の午前であれば、いつでも受診できますが、混み合う曜日もありますので、当院の診察券をお持ちの方は、事前に予約することをお勧めいたします。

これからも多くの患者様に安心して受診していただき、ご満足いただけるように、スタッフ一同、努力いたします。どんな些細なお悩みでも、眼に関して気になる症状がございましたら、どうぞお気軽に眼科へお越しください。



視能訓練士 永井



当院では

患者様の入退院支援の窓口として

地域医療支援課を設置しております

ご病気になったことから生じる患者様やご家族のお悩みや問題について医療ソーシャルワーカーがサポートいたします。

地域医療支援課では、主に次のようなご相談を受け付けております。

- **入院・退院** に関するご相談
- **転院** に関するご相談
- **療養上**のご相談（生活上、経済上の問題など）
- **医療・福祉・介護 保険制度** に関するご相談 等

相談内容によっては予約をお願いする場合がありますが、お気軽にお声かけください。

受付時間

月曜日～金曜日 8:25～18:00
土曜日 8:25～12:25

TEL. 053-545-5190

(地域医療支援課 直通)



翔き

はばた

2023
秋号
No. 71



本館2階にある眼科外来。当院では1泊入院での白内障手術も実施しています。



医療法人社団 盛翔会

浜松北病院

基本理念

思いやりを基本とした
愛情ある医療と福祉を実現する



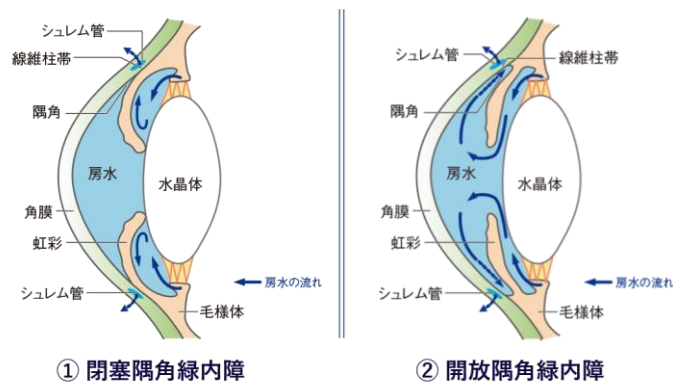
緑内障とは

よく耳にする眼の病気といえば、「白内障」と「緑内障」でしょうか。「緑内障」とは、眼と脳をつなぐ視神経が障害され、少しずつ視野障害が広がってくる病気なのですが、いくつかの種類があります。

成人の緑内障は大きく二つに分けられます。他の原因のために眼圧（眼の中の圧力、つまり硬さ）があがる「続発緑内障」と他の原因がない「原発緑内障」です。

続発緑内障で眼圧が上がる原因としては、ぶどう膜炎、外傷や手術後の炎症、糖尿病やステロイド薬の副作用などがあります。

原発緑内障には房水（眼の中の水）の出口である隅角が狭い「閉塞隅角緑内障（図①）」と隅角が広い「開放隅角緑内障（図②）」があります。



閉塞隅角緑内障では房水の出口である隅角が閉塞するために急激に眼圧が上がることがあります。「急性緑内障発作」と言い、緊急対応が必要です。

この緑内障では散瞳（瞳孔が大きくなる）作用のある薬剤を使用するときに注意が必要です。催眠鎮痛薬、抗不安薬、抗うつ薬、抗パーキンソン薬、抗ヒスタミン薬、抗てんかん薬などの中には抗コリン作用、交感神経刺激作用を持つものがあり、散瞳作用があるため緑内障発作を引き起こす危険があります。

一方、開放隅角緑内障の場合にはこれらの薬の使用は差支えありません。緑内障と言われたら、自分がどちらのタイプの緑内障であるのか理解し、治療を継続しましょう。

日本人では40歳以上の20人に1人が緑内障という身近な病気ですが、かなり進行しないと自覚症状が出ないため、定期的に健診を受けるなど、できるだけ早期に発見し、治療を開始することが大切です。

佐治 麻奈 医師

眼科

外来診療時間

月～金曜日

8:45～12:00

※月曜日のみ別医師（高山）の診察日です



食事で身体のメンテナンス

まだまだ暑い日が続いていますが、お盆の頃より空は高く感じ、種の詰った向日葵の花は、重そうに頭を垂れております。朝晩はココロギが歌い出しました。少しずつ秋めいてはきているようです。

先日、献立の見直しを行っている際、『カレーに用いる肉は、豚・牛、どちらが好まれるかな…』という話が挙がりました。若い栄養士の家庭は牛肉派の様です。私の家では、カレーもスキ焼も豚肉。貧しかったし、父が『牛肉は乳臭い…』と嫌っていました。そんな環境下で育った為か、牛丼屋のメニューに“豚丼、があったなら、私は間違いなくそちらをオーダーします。他の職員に聞いて回ると、50歳超えの職員は豚肉派が大半を占めました。ネットで調べてみると“世代、より“地域、で偏りがある様です。東日本が豚肉派、西日本が牛肉派という調査結果が出ておりました。皆さんの家庭はどちらですか？

『栄養科通信』と銘打っておりますので、今回は、栄養に関した事を書いてみたいと思います。

異常気象からか、今年の暑さは堪えましたね。食欲も落ち、心身共に不調をきたしてしまった方も少なくないと思います。『素麺だけで過ごした…』という方もおられるかもしれませんね。

そんな時、頼りになるのが、先程話題に挙げた“豚肉、です。豚肉には、牛肉よりビタミンB1が豊富で、夏バテ予防や疲労回復の効果があります。またアリシンの多いネギ類やニンニクと一緒に調理する事でビタミンB1の吸収が良くなります。

今まで牛肉で召し上がっていたお料理を、この時期だけでも豚に変更するだけでもいいと思います。肉とネギ類・ニンニクは普段から一緒に使っていると思うので難しくはないですね。おまけに価格を比較しても牛より豚肉の方が安く売られています。物価の高騰もまだ続いている事から、お財布にも優しいですね。

まだまだ暑い日が続くと思います。お身体ご自愛下さいませように。